

褒めて伸ばす大切さを広めようと頑張る

たけした ころき
竹下 幸喜さん (48)

ひと

中学校の保健体育教諭から一般社団法人「日本ほめる達人協会」の特別認定講師に転身。講演会などを通じて、褒めることの大切さ、素晴らしさを日々訴え続けている。「より多くの人に知ってもらえれば」と笑顔をのぞかせる。

陸上の短距離選手だった。大学を卒業後、教職の道に進み、県内の各中学で指導を続けた。生徒指導の担当者として生徒に接することも多く、「当時は厳しく当たっ

「教育を側面から支える」

ていた」と振り返る。だが2003年に大分市の種田東中で陸上部を指導していた時、長所を褒めたところ「(生徒の)目の輝きが変わった」。

以来、独自に褒める研究を続け、指導の中心に据えた。次の赴任先でも実践し、生徒の校内の態度、競技面でも成果を実感。そんな中、人を褒めて伸ばすことを提唱する同協会の存在を知った。当初は「半信半疑だった」。だが「この素晴らしさを広められるなら」と2014年、家族の理解を得た上で新たな道を歩み始めた。

講演会を中心に活動を続ける。

初年度の講演依頼は13件だったが、評判が広まり、2年目は年間130回、3年目の今年はさらに上回るペースだという。忙しい日々だが「毎日が挑戦で新鮮」と感想。その上で「教育現場を側面から支えられれば」と思いをはせる。出身地の大分市内で妻と2人の子どもと暮らす。

(首藤福功)

